



誰一人取り残すことのない

校長 金子 哲之

文科省は、令和の日本型教育として『誰一人取り残すことのない』教育を目指すよう方針・施策を示しています。

当然、これまでも子供一人一人を大切にする教育が行われてきたわけですが、少子高齢化がこれだけ危機的な状況になれば、ますます子供たちは大事に育てられなければなりません。

本校でも、今年は「自分らしさ伸ばしの教育」を掲

がっこうのせんせいになりたい

一ねん ひだか みこ

いろんなことをおしえたい

しゅくだいのまるつけをしたい

みんなとあそびたい

がっこうのときにみんなとつくりたい

みんなとおともだちになりたい

としよかんになったら

みんなにえほんをよませたい

めあてをかきたい

みんながのおととかわすれたら

みんなにかしてあげたい



MIYAURA primary school

げ、個の学びの充実を目指しています。例をあげれば、7月に3年生は、県総合教育センターから算数の授業提供の依頼を受け、問題を解く方法、追究の仕方、練習問題の選択などをすべて子供たち自身に選択・決定させる授業を試行しました。また、6年生は今、総合的な学習の時間の中で、身近な屋久島の課題から地球の未来の問題を捉え、「漁業」「森林環境」「外来植物」など、それぞれがテーマを持ち、関係者からの聞き取りや、体験を通して探究活動を深めようとしています。日々の学校ブログでも、「学校で生まれるすべてのできごとは子供の学びにつながっている」という一貫したテーマをお伝えしています。

さて、冒頭のみこさんの詩。とても気に入っています。子供のすぐそばにいて、子供と一緒に学校を楽しんでいる先生の姿が浮かんできます。タブレットも大事ですが、誰一人取り残さない教育とは、こうした寄り添う教育にあるように思います。

いよいよ運動会が迫ってきました。子供たちの自分らしさを見届けてあげてください。

雨上がりの宮小



収穫の秋。脱穀をしました！

こんなにたくさんのお米がとれました。



3年生の総合的な学習の時間で育ててきた稲。ついに収穫となりました。雨や台風の影響もあり、収量としては多くはありません。しかし、この子供たちの表情からは、活動の充実感を感じます。次は精米，試食です。楽しみです。



懐かしい5月の稲

民具である千歯こきや唐箕(とうみ)を使って初めて脱穀を体験しました。白いお米を食べるまで、八十八の手間が掛かるという言葉も聞き覚えがあり、感慨深げでした。

屋久島の学び 枕状溶岩を見に行ったよ



海底から流れ出した溶岩が海水で冷やされ、更に押し出されたことでできたこの地形。6年生の子供たちは、屋久島の長い歴史を体全体で感じていたようです。

ショパンピアノコンクール世界4位山本貴志さんの演奏会



山本さんの伴奏で、宮浦小学校校歌を歌いました。この時の音源は、宮浦小学校のブログ（紙面上部掲載のQRコードよりお入りください）にアップロードしております。

11月の主な行事予定

1	水	自由参観11/1～11/7
2	木	小・中なかよし音楽会(4年)
6	月	民生委員連絡会(午前)
		学校関係者評価委員会(午後)
7	火	PTA総務部会
9	木	お話一步スペシャル
15	水	PTA運営委員会
16	木	避難訓練
18	土	家庭教育学級
19	日	4年生学級レク
24	金	世界遺産出前講座(6年)
27	月	4時間授業(小中連携研修会)